

石川石川小学校・ICT活用能力

パワーアップ大作戦

1. 本校の、ICT活用に関する強みと弱み

目標の達成に影響を与える現状

+ (強み)

- すでに授業実践を行っている教員がいる。
- 若プロが機能している。
- 共通実践に協力的。
- 「総合的な学習の時間」のカリキュラムの中に、ICT活用する時間が位置付けられている。

- (弱み)

- ICTに対する苦手意識が強い教員がいる。
- どのような場面でICTを活用できるのかわからない教員が多い。
- 日々の業務に追われ、ICTを活用するための研修時間が確保しづらい。

2. 本校の、研修及び共通実践の方針

- ①ICT活用に自信を持っている教員が積極的に実践を行う。
- ②積極的に活用した教員が、他の職員に還元する。
- ③還元の場は、毎週行われている「職員終礼」内の10分程度を活用したり、「若プロ」内で研修の時間を設けるなど、無理なく参加できるような場を確保する。
- ④ICTサポーターや、県のGIGAサポートを活用する。
- ⑤職員会でオンライン形式を採用したり、全校共通でオンライン授業を行う。

「強みを生かし、無理なく弱みを克服する研修実践を行う。」

3. 実践事例

①ICT活用に自信を持っている教員が積極的に実践を行う。

実践例

- ・チームスに石川県の観光案内パンフレットのスクリーンデータを添付し、児童が自由に拡大しながら分かったことをノートにまとめる。
(4年 社会)

- ・「SkyMenuクラウド」の「発表ノート」機能を用いて、説明文の構造をペンで記入し、全体で比べさせる。(5年国語)

- ・チームスの「課題」機能を用いて、ブックトークメモを児童が各自で記入する。(6年国語)

など。

3. 実践事例

②積極的に活用した教員が、他の職員に還元する。



③「職員終礼」内の10分程度を活用したり、「若プロ」内で研修の時間を設けるなど、無理なく参加できることが条件。



3. 実践事例

④ICTサポーターや、県のGIGAサポートを活用する。

県の「GIGA出前授業」の活用

全職員が参加し、実際にGIGAパソコンを操作しながら、Teams, OneNote, Formsなどの活用方法を体験する。



3. 実践事例

④ICTサポーターや、県のGIGAサポートを活用する。

ICTサポーターによる、
「夏季プログラミング研修」
Scratch、プロゲルなどの活用

ICTサポーターによる、「PCソフト
応用研修」
Teams, SkyMenu, OneNoteなど



3. 実践事例

⑤職員会でオンライン形式を採用したり、全校共通でオンライン授業を行う。



1～6年生が、同日にGIGAPCを自宅に持ち帰り、オンライン授業を行う。
自宅にWifi環境がない児童や、学童の児童は、学校にて行う。

4. これまでの成果

- ①若手を中心に、GIGAパソコンを授業に取り入れてみようという意識が向上した。
- ②「Teams」を代表とする、GIGAパソコン導入によってはじめて目にしたアプリケーションに対して抵抗感を持っていた職員も、活用能力が向上した。（例：チームの作成、オンライン授業、資料の添付など）
- ③GIGAパソコンを積極的に活用していくことで、実践してみた教員からの質問や話題が増え、職員間でのICT活用能力につながった。
- ④職員終礼や職員会議での研修機会の確保により、無理のない範囲で全職員に対して研修を行うことができた。

5. これまでの課題

- ①職員間による、GIGAパソコン使用に対する温度差。
- ②「One Note」や「SkyMenu」など、児童が自由に書き込んだり、試行錯誤できるアプリケーションの活用が低調。
- ③基本的に、GIGAパソコンは鍵のついた保管庫に保管されている。そのため、すぐに取り出すような環境になく、スムーズな活用に至っていない。

6. 今後に向けて

- ①GIGAパソコンを全職員がさらに活用できるよう、「すぐに、簡単に」をテーマとした実践事例を、終礼などを活用して共通理解を図る。
- ②GIGAパソコンを児童がすぐに手に取れるような方策を提案し、実践する。
- ③Teams、OneNote、Forms、SkyMenuなど、特に活用が低調なアプリケーションを中心に、校内研修や共通実践を行っていく。

ご清聴、ありがとうございました。

